

令和5年（2023年）度 地域連携活動報告書

連携先名称：大分県杵築市

協定締結日：平成29年（2017年）11月20日

活動状況：継続中

連携先窓口：元農山村支援センター 竹田純一、青木美香子

①（大田地区）

杵築市役所大田庁舎大田振興課事業係課長補佐兼係長酒井健様

連携先窓口：②（山香地区）

杵築市農林水産課 主幹兼係長 羽嶋 紀人

活動資金：補助金

担当教員（所属）：町田怜子（地域創成科学科）

活動体制（単位）：個人

関連教員（所属）：宮林茂幸（東京農業大学名誉教授）

① 大分県杵築市大田地区

活動目的：

1. 山香町山浦地区活性化のための連携事業

地域資源を活かした商品開発と販路開拓を通じて、地域の活性化を図るとりくみ。

（1）里山に放置されたクヌギ等の端材（原木）を活用して薪利用の循環システムを構築する。

（2）端材は燃料革命以降、薪として放置され活用されてこなかったが、地域エネルギーの一つとして、供給可能な体制を構築することで、未利用であった原木の端材を活用した生業の創出を図る。

（3）この集積システムの構築により、燃料としての薪、木工用のクラフト用品としての商品開発、昆虫用産卵床（飼育キット等）としての商品開発と販売を行った。

活動内容・成果：

2021年より3か年間の事業期間で、農林水産省所管の山村活性化交付金事業を活用し、薪ステーションの開設、昆虫園の開設を行った。現在も進行中。

課題・改善点：

2017年大分県補助事業、2018年、2021年より山村活性化交付金事業を行ってきたが、2023年度で事業は完了した。現在は、セブンイレブン緑の基金の助成を受けて活動を継続している。

薪ステーション



目標としているカブトムシ園（2024年試作予定）



② 大分県杵築市山香地区

活動目的：

1. 山香町山浦地区活性化のための連携事業

地域資源を活かした商品開発と販路開拓を通じて、地域の活性化を図るとりくみ。

(1) 放置された竹林、森林の管理を行い、竹林を再生し、タケノコ生産を行う。タケノコは、付加価値づけのためメンマ等に加工し販売することで、地域内での仕事場の場づくりを目的とする。

(2) 鳥獣被害対策を強化し、猪鹿の捕獲頭数を拡大し、ジビエを作った地域特産づくりと、鹿猪革を活用した、新たなクラフトづくりを行い、地域内に仕事場を設けることを目的とする。

(3) 合わせて、果樹畑（ユズ等）へ侵入した竹の管理を行い、ユズ等の活用を図るため柚子胡椒の開発を同時に行う。

(4) 野草薬草資源を活用した商品開発と販売

活動内容・成果：

(1)(2) 2021年より3か年間の事業期間で、農林水産省所管の山村活性化交付金事業を活用し、山浦ジビエ、柚子胡椒等の商品開発を行った。

(3) 2018年より3か年間、野草薬草事業を農林水産省所管の山村活性化交付金事業を活用し、山浦ハーブの開発を行った。現在、継続して、事業は実施され、一般社団法人の立ち上げにつながっている。

課題・改善点：

2017年大分県補助事業、2018年、2021年より山村活性化交付金事業を行ってきたが、2023年度からは、新たに、農林水産業未来基金の助成を受けて活動を継続的に実施予定である。

開発商品の一例

柚子ジャムケーキ



柚子ジャム



柚子胡椒



ジビエの革製品

